

今後も期待！日本企業と日本株式！

21年ぶり！

先週金曜日、日経平均株価は21,155円で取引を終了しました。日経平均株価が終値で21,000円台に乗せるのは、1996年11月以来で、なんと21年ぶりとなります(引け値ベース)。

景気回復や企業業績が好調であることを背景に、株式市場に資金が流入しているようです。また今月下旬から本格化する決算発表に対する期待から、今後についても強気な見方が多いようです。

IMFの見通しも強気

世界的にも景気拡大傾向が見られます。10月に国際通貨基金(IMF)が発表した2017年の世界経済の成長率見通しは、7月の見通しから0.1%引き上げ3.6%に上方修正されました。先進国の見通しも2.0%から2.2%へ、日本の見通しも1.3%から1.5%へ上方修正しています。

先進国の好調を受けて、新興国でも好調な国がみられます。中国は当局の景気下支え政策などが効果を発揮したため、6.7%から6.8%へ上方修正されています。中国の回復を受けて輸出が好調な東南アジアもIMFは上方修正しています。

相対的に割安なのは・・・

世界的に好調な景気を背景に、世界の株式市場も上昇しています。

年初来でみると、米国は14.3%、インドは22.5%、ブラジルは26.5%も上昇しています。そのなかで、日本は11.6%の上昇と出遅れ感があります。

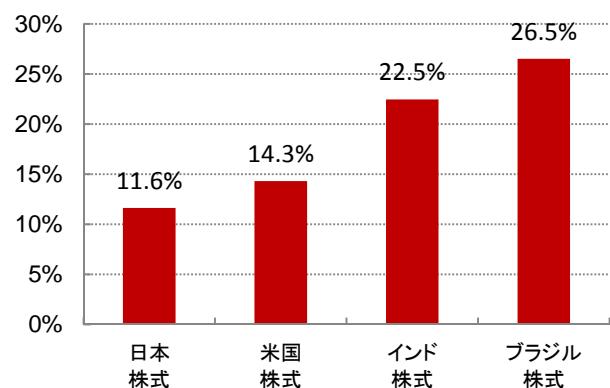
また、株価が割安か割高かを判断するモノサシのひとつとして株価収益率(PER)があります。日本株式のPERは、米国株式に比べて相対的に割安な水準にあり、この点からは今後も日本株式への資金流入は十分期待できると考えられます。

すでに2000年ごろのITバブルの水準を回復した銘柄も一部あるようですが、10月11日のボンジュールでもご紹介したとおり、ピクテでは相対的に割安感があることなどを理由に日本株式の判断を前月から一段階引き上げて強気としています。

当面は日本企業と日本株式の成長に期待できそうです。

■株式市場の年初来騰落率(現地通貨ベース)

(期間:2016年12月30日~2017年10月17日)



※日本株式:日経平均株価、米国株式:S&P500種指数、インド株式:S&P・BSEセンセックス指数、ブラジル株式:ブラジルボエスバ指数
出所:ブルームバーグのデータを使用しピクテ投信投資顧問作成

●当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものではありません。●運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。●当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。●当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。●当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。●投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。●投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の対象ではありません。●登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。●当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。